

青中 NEWS

青年中央会初の「オンラインセミナー」を開催

～若手経営者、後継者よ、「熱い想い」を持っていこうやあ～



講師 板坂 裕治郎氏

広島県青年中央会は3月15日、若手経営者や後継者の育成の一環として、会で初の試みとなるオンライン形式でのセミナーを開催。株式会社タイアンドギー代表取締役板坂裕治郎氏を講師に迎え、「今の仕事の流れ、いつまでも続くと思ったらん？～会社が生き残る方法、考えていこうやあ！」をテーマに講演をいただいた。以下、主な内容を紹介する。

中小零細弱小家業の社長は「怠慢、傲慢、自堕落、無知」の4大疾病にかかり、「アホ社長」となっているケースが多い。会社をスーパーカーに例えると、ボディとエンジン（社長自身）があり、左のタイヤ（経済力）と右のタイヤ（熱い想い）で会社は前に進んでいるが、時間が経つにつれ、右のタイヤ（熱い想い）が徐々に小さくなり、最後にはなくなってしまう。そうすると、前に進まず、右回りばかりを繰り返して前に進めなくなるので、会社として儲けることが出来ない。まずは「アホ社長」が4大疾病を克服することが重要であり、ミッション、パッション、ビジョンをしっかりと持ち、これらを社員と共有しなければならない。

また、コロナ禍で大企業や元請け企業も大きな影響を受けている今こそ、中小零細は「脱下請」を図る必要があるが、なかなか上手くいかない理由の一つに「先代との意見の相違」がある。2代目、3代目は新しいことに取り組み、脱下請を図ろうとするが、親である先代の理解を得られず苦労することが多い。先代はアナログ世代であり足で仕事を取ってきたが、今はデジタルの時代で、顧客は知りたい情報を手

の平（スマホ）で探することができる。それだけに顧客が探す情報にいかに関心がヒットするかが重要である。結果を出している2代目は、デジタルを上手く使い、顧客を「ファン」にしている。子供が結果を出せば親は必ず退く。2代目には意地でも結果を出すという根性や覚悟が必要である。

最後に、ビジネスはかけ算であり、「自分のスキル」に「協力者の数」を乗じたものが「影響力」となる。自分のスキルアップに時間がかかるなら、協力者を増やすことで影響力を増やした方が効率がよい。協力者を増やすには自分の想いを公表し、共感を呼ぶことが重要である。私は13年間毎日欠かさずブログを書き続けている。ブログで自分の想いを綴ることで、共感を呼び、協力者を増やしていった。今の世の中は「共感ビジネス」であり、協力者を集めることが鍵となる。

青年中央会会員の経営者層は、親の代から会社を引き継いだ2代目以降の社長などが多く、板坂氏の壮絶な人生体験から導き出した経営理論や、経営者が持つべき「熱い想い」の重要性などについて、熱心に聞き入っていた。参加者からは「刺激的な講演であり、魂がこもっていて、背中を押された」「理論や事例がわかりやすく、腹に落ちた」との感想が聞かれた。



青年中央会 田崎会長



（株）タイアンドギーからのオンライン配信風景